

動物内科看護学実習

VT コース専門科目 1年後期・2年前期 54時間 2単位 実習 必修

講師 藤田圭佑・友成公一・野瀬修央

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物病院における動物看護・受付・診察補助業務, 動物病院において院長で医師として診察・治療, 動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	ペテリナリーテクニシャンコース1年・2年
学習目標	内科診療の診療補助や必要とされる手技を習得する。
学ひのキーワード	保定、身体検査、バイタルチェック、院内衛生管理、採血、採尿、薬剤投与方法、輸液、輸血、血液適合検査、ワクチン
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。動物内科看護学 講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。系列動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を系列動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくりとして実習を行う。系列動物病院である〈動物の病院〉が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第4・6巻（緑書房）その他
回数	授業内容
1～3	身体検査① 全身状態の評価を学ぶ。
4～6	身体検査② 定期健康診断とそれに伴う検査について学ぶ。
7～9	身体検査③ バイタルサインをスコア化し、評価できるようになる。
10～12	診察補助① 診察の準備や診察室の衛生管理について学ぶ。
13～15	診察補助② 動物・飼い主を診察室に誘導し、適切な保定とバイタルチェックを行うことを学ぶ。
16～18	診療補助③ 採血・採尿に必要な器具と手順について学ぶ。
19～21	診療補助④ レントゲン撮影・エコー検査の手順について学ぶ。
22～24	診療補助⑤ 薬剤の取扱い、処方箋に沿った調剤、経口投与の方法を学ぶ。
25～27	輸液管理① 輸液ラインに必要な機材を覚え、その準備が出来るようになる。
28～30	輸液管理② 輸液ポンプ・シリンジポンプを操作できるようになる。

31～33	輸液管理③ 輸液速度や輸液総量を個体重量や症状に合わせて考えられるようになる。
34～36	輸液管理④ 輸液中の動物を管理できるようになる。
37～39	輸血管理① 犬猫の血液型と血液適合検査の方法を学ぶ。
40～42	輸液管理② 輸血中の動物を管理できるようになる。
43～45	薬剤① ワクチンとその感染症について学ぶ。また、感染症が疑われる動物の入院管理について学ぶ。
46～48	薬剤② 呼吸器・循環器疾患の薬剤とその疾病について学ぶ。
49～51	薬剤③ 神経・消化器・生殖器疾患の薬剤とその疾病について学ぶ。
52～54	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。